

緒言

本書は『仙洞句題五十首』『水無瀬殿恋十五首歌合』の全注釈である。言うまでもなく、正治・建仁期における歌会・歌合は『新古今和歌集』撰集のための重要な和歌作品となったが、その中でも前掲の両歌合は特異な存在である。

『仙洞句題五十首』は、花月に関する各二〇題、寄物恋一〇題からなる五〇題。詠作歌人は後鳥羽院をはじめとする六名、都合三〇〇首。全て詩句題。当初、院と藤原良経との間での企画であったところに、後の四人が参加したという。新古今和歌集には一二首が採入されるなど、当時の歌合としては異色の作品である。

『水無瀬殿恋十五首歌合』も、歌題は「春恋」をはじめとする一五題各五番の七五番。複合された恋題で、新古今和歌集に一五首採入。当代の一流歌人が本歌取りなどを駆使して詠み、秀歌が多い。

いずれも「題詠」という和歌の営為に関して言えば、それまでの詠歌方法を大きく発展させる画期的な作品であったことが明確である。後鳥羽院の三度にわたる応製百首だけでなく、『老若五十首歌合』『若宮撰歌合』『水無瀬桜宮十五番歌合』といった数多の歌会・歌合に代表される歌壇的催事に対する影響も甚大である。

上記の事由によって、正治・建仁期の新古今前夜における重要な価値を有する和歌作品と言えるが、同時に従来の良経家歌壇を吸収した後鳥羽院歌壇は、建久期の『十題百首』『六百番歌合』などの特殊題を内包するに留まらず、実験的性格の強い歌会・歌合に挑戦してゆく。その延長線上に『新古今和歌集』が結実すると言える。

巻末にそれぞれの解題を添え、初句索引を付し、それぞれの関係性に言及した研究論文を掲げることにする。

石川 一

目次

緒言……………石川 一 (1)

I 仙洞句題五十首

凡例……………石川 一 3

全注釈……………石川 一 5

解題……………石川 一 190

II 水無瀬殿恋十五首歌合

凡例……………田野慎二 201

全注釈……………田野慎二 203

解題……………田野慎二 353

初句索引

あとがき

執筆者紹介

石川

一

375

372

361

SAMPLE